

千葉の未来を語ろう！

特別対談

Vo.1

千葉市議会報告  
あたるレポート



千葉市長

千葉市議会議員(若葉区選出)

神谷しゅんいち

秋山あたる

「みんなが輝く・都市と自然が織りなす・千葉市」

2022年に政令指定都市移行30周年を迎えた節目の年に、2023年から開始する基本計画を策定した神谷市長と千葉市の未来のまちづくりを語り合いました。特別対談を全2回にてご報告します。

コロナ対策に奔走しながら千葉市の未来を考える

**秋山:**市長に就任されて1年半の率直な感想をお聞かせいただけますか？

**神谷:**ほぼ毎日コロナ対策をしている。そんな1年半でした。市民の皆さんに安心感を持っていただきながら、感染状況に合わせ、どうすれば地域や経済が活性化するかを考えていました。

**秋山:**新型コロナ対策で大変だったこと、経済活動の両立をどのように考えていますか？

**神谷:**医療資源が感染の急拡大に追いついていかないことです。限られた医療資源を多くの方にどうお届けしていくのかを考えながら対応してきました。経済活動では、コロナの影響がある中でICT導入等のビジネス領域を広げていく企業を支援していく対策を行ってきました。

その一方で、千葉市制100周年、政令市移行30周年から街の歴史を振り返ることで、これからの10年間で千葉市にとって何が必要なのかを考え、基本計画を策定しました。

**秋山:**人口減少などの様々な課題の中、千葉市の未来を築く土台の部分の基本計画を実施するにあたり、市民の意見を取り入れたものにしてほしいと思います。

**神谷:**そうですね。千葉市の特徴は都市機能があり、自然環境に恵まれているということだと思っています。その特徴が評価をされて多くの方が千葉市に転入してきています。新しい時代で求められるものを提供していけるような政策を取りまとめたものになっています。

**秋山:**私は基本計画の推進役として、若葉区の自然が豊かな魅力を生かし、様々なレジャー、観光、農業振興を通して市内外か

ら遊びに来ていただく方を増やし、経済を回していこうと考えています。

自分たちの街を自分たちで変えていこう！

**秋山:**私は、若い世代の代表であると感じています。若い世代が政治に関心を持つために工夫していることありますか？

SNSの発信に工夫

**神谷:**千葉市の施策をSNSで少し詳しく解説を加えて紹介しています。どうして千葉市がこの施策に取り組んでいるのかが伝わるようにどうしたら理解してもらえるかと考えながらいつも書いてます。

**秋山:**SNSで料理の写真を拝見しました。

**神谷:**千葉市役所に勤務した時に料理教室へ通ってまして、その時から自分で料理をするようになりました。料理で千葉市の野菜のPRなどをさせていただいています。

**秋山:**しっかりと千葉市の話題を含めながら、若い世代の方にも見ていただけるよう意識されているのですか？

**神谷:**ちょっと工夫はしております(笑)。最近では、山歩きがあまりできないので、運動不足解消もあり、クロスバイクをはじめました。時間があるときにクロスバイクで各地域を回っていますと違う感覚を持って街の違った側面を見られますので、そういったものをこれからご紹介して行きたいと思います。



秋山:千葉市では、自転車の活用ということで、施策を打ち出していますよね。

神谷:市内では、自転車用のレーンを設け、比較的、自転車が走りやすい街だと思います。市内全域さまざま見て回り、道路事情も肌身で感じることができるので、今後も続けていきたいと思っています。

秋山:そうですね。自転車は市内観光などで時間をかけているんな所を細かく回れるすごくいいツールだなと思っています。

神谷:カロリー消費量も結構ありますから、体にも良いじゃないかな。

秋山:私もクロスバイクを始めようかと思っています。(笑)

### 年代を超えての対話が市政の気付きになる!

秋山:神谷市長はこれを徹底的にしていることがあれば聞かせて頂けますか?

神谷:就任以来、「市長と語る会」を各区で開催しています。さらにプラスしてティーミーティングという市内の市民団体の方との意見交換を定期的に行っています。昨年は合わせて33回開かせていただきました。非常に幅広い年代の方に参加いただいています。

「市長と語る会」では高校生・大学生の方の参加もあり、私には気付かない視点でいろいろなご指摘をいただけるので私



にとって貴重な機会になっています。年代問わず幅広い方と意見交換をするというのが、市政推進の力になっています。

秋山:政治となると、堅苦しく考えて、20代、30代、40代の現役世代がなかなか参加しづらいところなのかな思いましたが、最近は若い世代の方の参加も多くなっているんですね。

神谷:会を重ねるごとに若い世代の方の比率が上がっていると感じています。話題の設定も若年世代の方にも関心持っていただけのようにして、自分の町のことは自分たちで変えていけるのだという参画意識を持っていたらいいような取り組みに行きたいと思っています。

### 第3子給食無償化・千葉市が県をリードする!

秋山:神谷市長が就任直後に第3子給食無償化を取り組み実現したことに少し驚きがありました。

神谷:コロナ禍で非常に経済が厳しい中で多くのお子さんをお持ちの家庭の経済的負担が多いので、まず、第三子以降の無償化取り組むべきだという考えがありました。

### 三人目の数え方をどうするか?

神谷:例えば、上に高校生、大学生がいるご家庭で、第三子が中学校に行く家庭は非常に負担が大きくなっています。千葉市

は、実質的に三人目の方がすべからず無償化になるような制度設計しました。

この考え方は千葉県が県内の自治体に対して、第三子以降の給食無償化の補助制度で、千葉市の考えがまるまる採用され、まさに千葉市が作った制度が全県に広がりを見せていく、そんな一つであると思っています。



秋山:早速、千葉市として千葉県をリードする結果を出されたということですね。

神谷:三人目の考え方について、県の補助制度の説明の中で、同様の考え方を採用していただいたのは正直嬉しかったです。

### 校則の見直しが政治への関心につながる!

秋山:私自身が取り組んでいることに学校のルール作り、校則があります。私は児童・生徒達が学校のルール作りに関わる機会を設けることによって、将来的に大人になった時にその活動が政治への関心につながると考えています。

神谷市長の考えの中で、これからの校則についてどのような考えがあるか、また、学生の頃の校則にエピソードなどがあれば、話していただけますか。

神谷:私、中学生時代は丸刈りでした。ルールが何のためにあるのかを見直して行かないと、時代に合わない規則だけ残ってしまうことがあります。今ある校則が何のためであって、今も本当に必要なのかと



児童・生徒も巻き込んで、必要性について議論をして今の時代に合わないものであれば、不合理なものであれば見直していけばいいんじゃないかと。私が中学生の時には丸刈りにすることが目的になっていて、何のために丸刈りなのか、わからなかった覚えがあります。(笑)

秋山:ありがとうございます。私も学生時代には「校則は守るべきものだ」と考えていたので、ルールが目的化しやすいのはよくわかります。教員、生徒、地域も巻き込んでみんなでもう一回話し合いをして、学校生活、地域の生活、環境の為に適してるものなのかを考えていくことが重要なことなのかなと思っています。

※この対談は、十分な距離の確保、換気の実施など、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、実施しました

### 編集後記

神谷市長と千葉市の未来について対談をしました。私の個人的な印象は神谷市長の親しみやすいキャラクターで若い世代の方々が話を聞いてもらいたいと思っているところがあるのかなと思いました。話が尽きず、予定時間を大幅に過ぎてしまいました。次回、特別対談第2弾を掲載します。



mail : info@akiyama-ataru.com  
web : https://akiyama-ataru.com

秋山あたる

未来立憲民主ちば会派

あたるレポートNo.7 特別対談Vo.1

発行元：秋山あたる後援会  
〒264-0005  
千葉市若葉区千城台北3-3-10 シティハイムチシロ 102  
電話番号 090-3819-3784